

ガイドによると、モスクに入り前  
身を清めるために雨水を貯め使うよ  
うだが、今は中にゴミが散らかった  
ままで、とても聖なる所には見えな  
い。モスクに近よって見ると、中で  
お祈りをしている人達のものと思わ  
れる靴が、コンクリートで作られた  
階段の下に幾つか並んでいる。モス  
クの中に入る時は素足のままで入る  
らしい。中を覗くと静寂な空気が漂っ  
てくる。建物の細部に目をやると、  
繊細な日本の建築物に比べてかなり  
大雑把な感じがするが、そこがお国柄  
の違いなのだろう。

寺院を後にして、私達は国王の別  
荘を見学する。広い土地に回教寺院  
と同じ白い壁とブルーの屋根が印象  
的だ。グリーン芝生の中にゆった  
りと建っている宮殿をバックに記念  
写真を撮る。煌びやかで豪華な感じ  
といった宮殿の持つイメージが外見  
からは感じられないが、広大な土地  
の中に悠然とたたずむ様はやはり国  
王の威厳と言ったものを感じる。別  
荘を後にしてバスはマレー村へ。

マレー村と言っても日本の山村の  
集落とは違う。バスを降り民家の入  
り口と思われる所に民族衣装らしい  
着物をまとった人が数人と、見るか  
らに失業中と思われる男性達がブラ

ブラとたむろしている。観光客の為  
の急場しのぎとも思える椅子が並ん  
でいる。

勧められるままに椅子に掛けると、  
ブラブラしていた男性が、手にして  
いる楽器らしいもので演奏が始まり  
歓迎の宴が始まった。踊りはおざな  
りでは有ったが、団扇の大きいもの  
を持ち踊る格好が安来節に似ていて  
ユーモラスな感じを受けた。

ショーが終わると民家の中を案内  
してもらおう。中流クラスの住まいと  
聞いたが、それでもまだ良いほうの  
ようだ。炊飯器は昭和30年代の製  
品ではないかと思われるくらい古い。  
クーラーは無く自然の風を取り入れ  
る天然クーラーである。衛生状態は  
悪い。民家の直ぐ傍の錫製品を作っ  
ている所に案内され簡単な作業を見



勧められるままに購入した錫100%製品

せてもらう。ガイドから「他で買う  
錫製品は偽物が多く、ここでの購入  
を！」としきりに勧められるので、  
つい口車に乗ってしまった。

後になってよくよく考えてみると、  
旅行会社と現地ガイドとガイドが連  
れて行くツアー客専門？のショッ  
プは、ツアー客で持っているのだから  
セールスはプロ！（自分の稼ぎに直  
接関わっている）うまいに決まっ  
ている。私の負け！そう言う訳で、お  
買い物直後の私達はご満悦の様子  
です。

マレー村を後にして、更紗工場へ  
と向かう。ここで更紗のロウケツ染  
の工程の説明を受け、その後お決ま  
りのお買い物。ロウケツ染の巻きス  
カート1枚200円！お買い上げ！  
まるで面白い物ツアーだ。もつとも、  
こういうツアーは面白い物ツアーと決  
め込んで参加するらしい。

約30分のショッピングが終わり、  
ジョホールバルからシンガポールへ  
の帰途につく。来た時と同じように  
出入国の審査を受ける。夕刻で仕事  
を終えた人達が多い。バイクでの通  
勤者がバスの路線とは別に設けられ  
た通路を走り抜けていくのが目立つ。  
バスは橋を渡りシンガポールへと。

日も幾分傾きかけ異国の情緒を盛  
り上げます。夕食までの間、オプショ  
ナル・ツアーに参加するグループと  
クラーク・キーの散策をするグルー  
プに分かれる。

OPツアーのリバー・クルーズに  
出発するまでの15分くらいの時間  
にクラーク・キーの賑やかな雰囲気  
を味わうことになって散策開始。

クラーク・キーとポート・キーは  
かつて倉庫街だったが、都市再開発  
局によって新しいグルメ・スポット  
として蘇った町だそうです。クラーク  
・キーでは、若者が好みそうなお



シンガポール最大の夜遊びスポット「クラーク・キー」

店がいっぱいです。賑やかなネオンに飾られた店が目を見舞います。ディスプレイや広場に設けられたパブも有ります。屋台もいっぱい並び選ぶのにひと苦労しそう。でもまたそんな所がクラーク・キーの魅力になっているような気がします。

カラフルなファッションがライトに浮かび上がっています。店の入り口には客寄せの安価な品物が所狭く並べられ目を引きまします。早速奥様の目が釘付けになりました。やっぱし！シルクのスカーフがナント：80セントくらいから売っている。安い！私も店内に入り見て周ることにした。

目を疑うような値段のものが沢山有るでは有りませんか！私は人目もはばからず突進したかと思えば、大声で一発！「この場所はワイの縄張りや二 手触れたら承知へんで二」そしてワイフの出番を待ちまします。

「あねさん！準備万端整いました！」  
「そこであねさん登場！ジャンン！」

ひっかき回すわ、下の物をひっぱりだすわ、もう手がつけれられません。いやもうあきれれるやら感動するやら。……… 浅田次郎のプリズン・ホテルじゃーないっちゆうの！………つい脱線してしまい失礼致しました。店内には本当にびっくりするくらいの品

ばかりです。

シルクの薄いガウンで背中にドラゴンの絵をあしらったのが目に止まり、早速試着してウツトリしている、「見つとも無いから止めなさい！」ときつい言葉。ガックリ肩を落とす私。楽しい買い物も済ませりバー・クルーズの集合場所へ急ぐ。

クラーク・キーの散策もそこそこに20人は乗れそうなボートに10人づつほど乗り込み、船は出発。クラーク・キーはシンガポール川の河口から5・600メートル位上流の所に有り、船はそこから河口のマーライオンの有る場所までの短いコースを往復します。船から見える川沿いに並ぶ高層ビルとボート・キーのおしゃれで華やいだ町並みが美しい。夕闇が迫るとネオンが一層引き立ってくる。30分弱のクルーズが終わり、時刻もそろそろ6時半を回って夕食の時間です。

集合場所からバスで移動してネオンの華やかな街中へ。賑やかなネオンに彩られたビルに着き地下への階段を降りると、そこは“マイチン”レストラン。夕食は中華海鮮料理を賞味します。円卓では食事が来るのを“今や遅しと”ばかりに待ちまします。

まずビールをゲットし胃腸のエンジンを徐々に高め始めると料理が運び込まれてきました。待つてましたとばかりに夕食の宴が始まり、会話もそこそこに食事に夢中です。特別に目新しい料理は無かったが美味しく頂けました。

円卓の食事では皆さんどうしても遠慮がちになるのか最後に少しづつ残ってしまいましたが、そこは年の功、年配の男性がしっかり平らげてくれます。そう言えば確か飛行機の中でも、出て来るもの全て食べていたあの二人組！納得！

食事が終わるとOPのトライショーに参加します。参加する人だけインド人街近くでバスから降り、金魚の糞になり輪タクの屯している場所へ。

**輪タク**は 自転車の横にサイドカーがついている自転車のタクシーに乗って、一般の観光客が普段は怖くてなかなか入れないと言われているインド人街の裏通りを約1時間かけて見て周るツアーだ。

ガイドの話によるとこの輪タクは、かの有名な通称“山口組”の経営だとか。「だから安心ですよ！」だって。



勧められるままに購入した錫100%製品

輪タクの運転手は、若いお兄さんから年配の叔父さんまで居る。若いお兄さんは兎も角として年配の叔父さん連は大変だろう。何せ人を乗せてペダルを自力で漕ぐのだから。参加者は一人づつ輪タクに乗りこみます。私は運悪く一番年配の人に当たったけど大丈夫かしら？いよいよ出発です。レッツ・ゴー！

風を切り道路の中央を怖いもの知らずの“山口組”輪タクは進みます。20台もの輪タクが一列で走る様は勇壮で否応にも人目を引きまします。しかも信号無視は当たり前。地元ではやはり知られた存在、タクシーも一般の車も一目置いてるようだ。インルミネーションが眩いばかりのインド人街のメインストリートが見えてきた。

買い物客と車が忙しく交差して、道路はかなりの混雑だ。人と車の混雑する中へいよいよ輪タク突入！この時期インド人街は、年に何度かの祝日前に当たるらしくそのため混雑しているらしい。お正月の休暇も1週間まとめで取る日本と違い1日づつ3回取るそうだ。小さな店が軒を並べるなか真剣に品を選ぶ客、アメ横を思い出す。そんな中を輪タクは悠々と進んで行く。

メインストリートから裏通りへと入って行くと怪しげな空気が漂う。うわさの“オカマ通り”に差し掛かると女性と見間違う人達がたむろしている。更に進み目を凝らしているとおそらく客引きだろうと思われる光景に出会う。赤線地帯に入り込んでいられるらしい。そんな光景を横目に金魚の糞に化した輪タクは裏通りを抜け明るい表通りへと戻ってきた。

インド人街の雑踏から離れて有名なラッフルズ・ホテルに到着すると輪タクに別れを告げる。

ラッフルズ・ホテルは「東洋の貴賓」と形容される、シンガポールの重要文化財になっているだけあり格調がある。ライトアップされたホテルが夜の街に浮かび上がり良い雰囲気を出している。心地よい風を受けながらホテルの散策を終えると、バスにて帰路についた。

宿泊先のホテルに戻ると10時を回っている。部屋に戻る前に昨日行つたコンビニへ。

疲れで足取りが重い、疲れを癒すビール一杯を思えば気分は軽やか。昨日と同じ道のりを往復し、部屋に戻るとさすがに疲れしました。ビールを飲みシャワーを浴びるとボタンキュー眠りの沼に沈みました。



「東洋の貴賓」といわれるラッフルズ・ホテル

**3日目 (2000.10.24)**  
昨日の疲れも取れ6時半起床。さすがに奥様も若い。少し疲れも残っている様子だが元気です。モーニングコールが鳴る前に出発の支度を始める。

今日はホテルを出ると観光の後そのまま空港に向かう予定になっているので、荷物を持ちチェックアウトする。「もう頼むから止めてよね！」と言うワイフを振りきり、私は洗面所に行き未使用の髭剃りやシャンプー

リンスをゲット！ 持って帰るのが何時もの習慣になっている。だって、すごく重宝ジャン！…こういうことをする私はやっぱり小市民なのでしょうか？

荷物の整理が終わると部屋の前にトランクを出し、バイキングの朝食を済ませる。メニューは殆ど昨日と変わらないが昨日食べなかったものを積極的に取り揃えテーブルへ運ぶ。こんなに食べられるの？と言うワイフに、私は賑やかなメニューを前にしてニコニコ顔。まるで子供！

おかゆはどんなかな？とゲットしたがこれは美味しくない。おかゆの他にコーンフレークにミルクを入れ、これもゲット。さらにクロワッサンもべろり！ 果物の他に食後のデザートにブルーノのたっぷり入ったヨーグルトもゲット。飲み物もジュースとミルク。駄目押しのコーヒー。この世の食べ収めみたい！

食事を終え部屋に戻ると忘れ物が無いが再度確認し、枕もとにメイドへのチップ2ドルを置き部屋を出る。8時半ホテルを出発、全日空ホテルへ。

今日は午前中の観光が終わるとパノクに向かう予定のため大忙しだ。全員が揃うとマウント・フェーバー



マウントフェーバーからの眺め

へバスは登っていく。

マウントフェーバーはシンガポールの西側約700メートルほどの所に有り、天候の良い日は周囲の島々が望め最高のロケーションになっている。10分くらいで頂上に着く。

マウントフェーバーの展望台に立つと東側にはマリーライオン公園のあるマリーナ湾が広がり、南側の眼下には世界貿易センターとセントーサ島につながるケープブルカーが見える。20分ほど山頂からの眺めを楽しみ、売店で土産物のウォッチング。

マウントフェーバーを後にし、世界貿易センター内にある免税店にて約1時間のショッピング。買い物が無

くともウォッチングだけでも結構楽しい。免税店だけに安いものが沢山あるが、欲しいものは特に無い。3階から見て周り2階1階へと降りていく。

1階のフロアで可愛い龍のマスクットを記念にゲット！ あつという間に時間は経過し、全員集合！

11時、バスはイースト・コースト・パークウェイを抜け空港へ。空港に着くと待ち時間の間昼食の幕の内弁当をとる。添乗員の牟田さんが笑顔でお弁当を配り始めた。何と無くテイクアウトのほかか弁当にそっくりである。各自受け取ると、空港内を見渡し空席の椅子を探している。私達も早目に食事を済ませる事にして、通路から出来るだけ離れた場所に移動し椅子を確保した。横を見ると椅子を3個も独り占めにして寝ている人がいる。迷惑なのでたたき起こそうと一瞬考えたが、逆にたたき寝かされるのがおちで、そつとしておいた。

音を立てないように弁当の蓋を空ける。空けてビックリ！中は鳥のから揚げ弁当ではないか。幕の内弁当だと期待させておきながらそれはないでしょうが！牟田さんの大嘘ツキ！食べて見ると此れが又美味しい事。



世界貿易センターで土産に購入した龍のマスコット

空腹のお腹はどんなものでも大喜び！美味しそうな匂いに刺激されたお隣さんが目を覚ました。私は絶対取られるものかと弁当をしつかりと更に力強く握り締めた。お隣さんが諦めて立ち去ったので、私はすばやく平らげました。

食事の後、使い残したシンガポール・ドルを此れから向かうバンコクに通貨であるタイバーツに交換するため空港内の両替所へ。宝くじ売り場ほどの小さな両替所には旅行中らしい若者が3人並んで待っている。私もその後並び両替を待つ。交換レ

トは毎日変わるのでその日によって違う。その日のレートで計算されるため僅かづつだがプラスマイナスが生じる。私は僅かのお金しか残っていないのであまり変わらない。5分もしないうちに私の番が回ってきた。

窓口の向こうからプリーズ！と声が掛かり、国際人になって既に3日目になる私は自己流の滑らかなENGLISHで、Please exchange Singapore dollars for Thailand money. とさり気なく伝え、残りのシンガポールドルを差し出した。

10ドルと僅かのコインは、100バーツ2枚20バーツ2枚の札に交換され小さなコインが幾つか戻ってきた。小さなコインを良く見ると交換されないままのコインも混ざっている。結局交換できなかったコインは別のポケットに入れて、バーツと混同しないようにしておいた。

12時には出国手続きが始まり、いよいよシンガポールを離れるときがやって来た。ガイドのトニーさんともお別れです。13時35分発CX712便にて、シンガポールの楽しかった思い出をいっぱい詰め込んでいざバンコクへと向かう。

搭乗手続きを済ませ搭乗口へ急ぐが搭乗はまだ始まっていない。待合

室は搭乗を待つ人で一杯になり始めている。疲れも出始めた私達は、ゲート前にある動く通路の手すりの下側にまるでスズメみたいに並んで腰掛け搭乗を待つ。添乗員の牟田さんは搭乗手続きで忙しかったのか、まだ昼食のお弁当を持ったままだ。私が「また食べるの？」とからかうと、「お昼まだなんですよー」と私達の横に並んで腰掛けると、よほどお腹が空いていたのかお弁当に顔をつ突っ込み夢中でかき込んでいました。レディーであることも忘れて……。

15分ほど待つとアナウンスが有り搭乗が始まった。私達も重い腰を挙げ後に続く。窓側の席に着くと、名残惜しい気持ちと此れからの期待が交差する。機内では乗務員が救命用具の説明を始め離陸の時間が近づいてきた。機体はメイン滑走路へ移動。ジェットエンジンの音が次第に高まりスピードが増していくと、体への圧力がぐんと強くなった。

フツと機体が宙に浮いたかと思うと、機体は地上からどんどん離れていく。30度以上もありそうな急角度での上昇を続け旋回を始めた。

何層もの雲を抜け水平飛行に移るとシートベルト着用のランプが消えた。これから約2時間バンコクへの

飛行が続く。

日本とシンガポールとの時間差が1時間、シンガポールとバンコクとの時間差は1時間あるので日本との時間差は2時間になった。現在の時刻が2時頃だから日本時間は1時でバンコクは3時なのだ。

などと独り言をつぶやきながら窓の外を眺めている。ごく当たり前に感じる事が出来るのは、日本を離れてみて始めて感じる事が出来る素晴らしい体験に他ならない。

世界は広いと思っていたがこうして日本を離れてみると意外に身近に感じるものだ。

雲の切れ間から海が見える。気流のためか機体が時折揺れるが快適な空の旅だ。飛行開始から30分も経つただろうか、スチュアードスのユニフォームが変わった事に気が付いた。

音のする最後尾のほうに目をやるとワゴンサービスが始まっている。

昼食を取ってからまだ2時間も経っていないが、何故かこれがまた楽しみになってきたから不思議だ。

ワゴンが自分の所に回ってきたとき、フツと搭乗前の事が頭に浮かんで来た。確か添乗員の牟田さんは飛

行機に乗る前に食事していたはずだが……。また食べるのだろうか？などと馬鹿な事を考えて一人でニヤニヤしてしまった。例の2人組のおじさん達も嬉しそうに今か今かと待っているに違いない！などと考えて再度ニヤついてしまった。

私はビールを貰いツマミのつもりで食事に箸をつけたのだが、あろうものか殆ど手をつけてしまったものだから自分でもオドロキました。お腹も一杯で食後は眠気が誘います。

うとうととしている間にも飛行機は思っていた以上に飛行距離を伸ばしている。

窓からの景色ではミャンマーあたりに差し掛かっているのだろうか？大きな川のうねる様子が手に取るように見える。上空から見ると川の色は茶色で、まるで洪水の後の泥流を思わせる。川沿いには所々に小さな集落があり背後には平野が広がっているのが見える。

蛇行した川が続く中を飛行機の高さが少しづつ落ちて右に旋回を始めた。周囲には山が見当たらない。広い平地とその中をまるで大蛇を思わせる大きな川のうねりが視界に広がる。機体はゆっくりと高度を下げ、

点在する民家や車が見えてきた。バンコク国際空港は直ぐそこまで近づいてきたようだ。

高層の建物は殆ど見当たらない。高度が更に下がって、密集する市内をかすめるように着陸した。窓から見える空港はいかにもローカル空港といった感がする。外は暑そうだが、機体はゆっくりと滑走路を移動し、ターミナルゲート前に停止した。

ボーディング・ブリッジが機体に接続されドアが開きいよいよバンコクの地に降り立つ。

ゲートを抜け出国手続きに向かう。旅行3日目ともなると随分ゆとりが出て来たと思えて皆さん穏やかな顔



バンコク国際空港



をしてる。出入国の手続きが終わりバスに向かう。外は思った以上に暑い。全員バスに乗り終えると、最後に現地ガイドの文チャンのお出まします。

これまた流暢な日本語が上手なこと。空港を出るとバスは今日の宿泊のホテルに向かった。行き交う車やバスは廃車寸前といったものが多く、真新しい車はあまり見うけない。日本からも数多くの中古車が輸入されていると聞くが本当らしい。道路沿いに立ち並ぶ建物はどれも皆古く、すれ違う人の姿を見ていると質素な暮らし振りが目に浮かんでくる。

タイ王国の首都バンコクは風土の影響なのか絶えず土埃が舞い、見るもの全てが埃をかぶって白っぽく見える。そんな中、沿道に屋台が並んでいる。不衛生極まりないと思うが、長い間の生活習慣はそんな事を全く感じさせないのか、気に止めていない様子はない。バスの中からは薄汚れた建物とバイクがやけに目に付く。

後で解った事だが、バイクはタクシーとして大活躍しているらしい。反対車線に目をやると小さな幌付きの三輪車とすれ違った。これもまた



バイク同様、活躍している様だ。バスは大通りから反れ、道の両側に店の並ぶ路地に入った。

対向車とすれ違うのにはあまりにも狭いと感じるが、バスは平然と進んでいく。前方で乗用車とバイクが接触したのか何やら揉めている。道路の真中で堂々と口論している。車を道路脇に寄せてくれれば良いのに、全く動じる様子はない。バスの方もこの様な光景は毎度の事なのか、クラクションを鳴らす事もなくのんびり待っている。5・6分もすると何も無かったかのようにバスは走り出した。

バスが走るのにはやはり狭い。路地を縫うように走り、バスはようやくホテルに着いた。

ホテルのロビーはそんなに広くなく、左手にフロントがありロビーを挟んだ向いに喫茶室とレストランが並んでいる。簡単な説明の後キーが配られ、全員一旦部屋に入り暫らく寛ぐ事になった。前日までのシンガポールのホテルと違い、今日のホテルは広くゆったりとしている。他の人達も同じと思っていたら意外と狭い。私達はツイテイル！ ラッキーだ。

同行のメンバーの一人が嬉しそう



な顔をして私達の部屋に入ってきた。「良いものが見える」と言うので着いて行く。部屋の窓から眼下を眺めるとプールがあり、水着姿の女性が横たわっているのが見えた。なんと、たったそれだけの事。ワイワイがやがやとしていた間に30分程経ち、ロビーに集合する時間だ。

夕食は違うホテルに移動して取るようで、ぞろぞろとバスに乗り込み、夕暮れ時のバンコクの市内観光をしながらお出かけです。ホテルへ来た道を再度バスは戻る様に進んで行きます。



10分も走らないうちにバスはのろのろ走り始めました。文ちゃん曰く「バンコクではこんな事当たり前」時刻は丁度通勤の人達の帰宅時間で、多少は仕方ないでしょう。ツアーの皆さん笑顔で納得をしていらつしやいます。その笑顔のナント美しい事。しかし、これから先に起こる事を誰が予想をしたでありましょうか。

のろのろ走るバスの中からは市中の様子の手取る様に見えます。ウォッシュングには最高です。路上でのやり取りがここまで聞こえてきそうです。露店や路上での屋台が数多く目に入

ります。バンコクの人々は家で食事をあまり作らない習慣らしく、お勤め帰りのOL達も露店で買い物をしていきます。至る所で目にしていたら、不思議と気にならなくなった。人通りの多い路上で、ゴミのワゴンからダンボールを引っ張り出している人がいる。外見からは随分若そうに見える。なにもゴミ箱などあさもなくともいいのに。他にやる仕事無いかしら？ 近くにいた人も知らん顔です。知らないうちにバスはストップしたままです。バスの前後に目をやると道路は車でギッシリです。周りの車の運転手は何食わぬ顔です。

私達のバスの中は、あちらこちらから苛立ちの音が聞こえ始めます。そろそろお腹も空いて来ております。ゆえ仕方ありません。先ほどバスがストップしてから1時間ほど経過しているのに50メートルも進んでいないのですから、皆さんのイライラも十分に納得の行く所です。ガイドの文ちゃんは慣れっこだから至って平気。そのうちに目的地に着きますからと言わんばかりです。

日は暮れて灯りが点り、お腹の虫は騒ぎ始めてきましたから、皆さんの苛立ちにはピークに達しそうです。私は旅慣れた？ 国際人ゆえ、ウォッシュ

キングを楽しんでおります。バスは依然として動こうとはしません。対向車線の方からは少しづつ車の流れはあるのですが、私達の行く方向だけはと言う訳か全く動く気配無し、実に困ったものです。

さらに30分も経つたでしょうか。バスは何時もの慣れた道をのんびりと動き出しました。

ネオンが綺麗な街並みから、バスは高速道路に入りました。高速道路に入ったバスはこれまでの遅れを取り戻すかのようにスピードを上げます。1・2分も経たないうちに街並みは消え、高速道路から所々に見える民家はまるで廃墟のようにさえ感じられます。薄暗いランプの下で洗濯でもしていると思われる姿が見えます。過去の日本にも有った戦後の廃墟の中の生活の一部を覗き見しているかの錯覚を覚えます。私達はこうして贅沢な旅行の最中であり、目前には廃墟の中の生活を送る人達。先程までのまぶしいネオンの中とは違いすぎる光景に、一瞬心が痛みます。

高速を30分も走ると、バスは先程より幾分静かな街に入る。時刻は8時を回っている。街中のネオンの数も少ないようだ。5・6分も走る



と大きなビルの前に着いた。ようやく夕食に有りつけられるらしい。2時間もバスに揺られお腹もペコペコの皆さんは足取りも重い。ガイドの文ちゃんの案内でビルの2階へとゾロゾロ進む。まるで餓鬼の行進？ 重い足を引きずりながら一列で着いて行くと、良い香りの中に円卓が今や遅しと待っていました。皆の顔は一瞬にして綻んでいます。

夕食のメニューは「タイ風しゃぶしゃぶ」です。今思い出してみると特にご馳走でもなかったのだが、そ



タイ式マッサージ (イメージ)

の時はなにせ腹へこのどん底だったものだから最高のご馳走！皆さん、只もくもくと食べるのに夢中でした。野菜と魚のすり身の入った鍋物で簡単でありふれたメニューでした。よくよく考えてみるとこれは文ちゃんの始めからの計画だったのでは？計画的に道路の渋滞している所を選んで、皆を完全な腹ペコの状態に陥れる！いやはや完全犯罪だったと思われれます。ともあれお腹も満腹、皆の顔に満足げな笑顔が戻りました。

食事も終わりこれからはオプショナルツアーのお時間。私は数人の人達とホテルへ戻る事にし良子さんは「タイ式マッサージ」のツアーに参加する為に別行動です。

一足先にホテルに戻った私は、一人でホテル周辺の探索に出かけました。

とても不安です。ホテルを出るやいなや男が声をかけてきました。タクシーに乗って行け！と私を誘います。私は男の誘いをきっぱりと断り笑顔で歩き出します。(本当はその場を逃げ出したのです。)

ホテルを出ると街路灯が少ないせいか、一面は暗がりが多く何と無く薄気味悪い雰囲気です。

私は自信に溢れた姿を装い、皆が惚れ惚れするくらい(しないっつーの!)堂々と歩いて行きます。時折すれ違う人がやけに私をじっと見つめるその視線が突き刺さり、暑いバンコクの夜風が涼しく感じられました。(冷や汗かいていたのでは? いやいやそんな事は絶対にありません!)私達が宿泊しているホテルから約100メートル程離れている所にDXコースのメンバーが宿泊しているホテルがあります。DXコースだけあり格が違います。ホテルに入ろうとすると、ドア・ボーイが 안타ナニシニキタノ?と言いたげな顔で私を見つけてきます。ナント失礼な! 実際人に対してなんと無礼きわまる態度。社長を呼べ! 社長を! と言いたい所をグツと我慢しホテルの中に入りましたら、な・なんと豪華絢爛ではありませんか。私達の宿泊しているホテルとは雲泥の差です。



バンコク市内の夜は賑わっていました

でも私はホテルに泊まりにここまで来ている訳ではないのだと自分にして言いかかり聞かせながらも、ホテルの中をじっくり見て回ることにしました。DXホテルにはDXホテルに似合いのDXな客が居そうですが・・やはりいらつしやいます。いかにもブルジョワってタイプの人達が優雅な装いでお歩きになっていきます。一瞬、自分のいでたちを想像して、冷や汗が一粒流れました。なぜなら、GパンとTシャツの上に、い

くつものポケットが付いただけならまだ許せるけれど、そのポケットは何処も膨れっぱなしなので。DXホテルにはどうしても似つかわないスタイル!でも私は自称国際人なのです。何事も無かったかのよう

にホテルの奥へ進みます。

色々なお店が私の目を楽しませてくれます。ウインドウショッピングだけでも充分に楽しめます。カラフルな可愛い陶器が目に入りました。いかにもエキゾチックな感じのするティーカップです。

私は店の中に入りました。こじんまりとしたお店の中には、私の気に入ったような物がギッシリ。陶器と言えば焼き物。焼き物と言えば有田焼。本場有田産でありながら素人の私は、一見?プロの目で一つ一つ手に取りながらじっくりと品定めです。30分ほど眺めていたでしょうか。一つのティーカップを片手に、交渉開始です。

ところが相手は並々ならぬ玄人の売人!いやはや交渉は暗礁に乗り上げてしまいました。と言うのも私の無理難題を聞いて呆れるやら、しらけるやら。なにせ最初から半額以下の先制パンチを浴びせたのだから無理も無い。結局、交渉決裂とあいな



りました。ウインドウショッピングを終え何事もなかったかの様な涼しい顔でホテルを出ました。

来た道に戻ってホテルに着き30分程も経ったのだろうか、OPPツアーから良子さんが顔を綻ばせながら戻ってきた。開口一番「いやー気持ち良かったー」と初めてのタイ式マッサージにご満悦の様子です。良子さんが堰を切った様にタイ式マッサージの話を始めました。

OPPツアーのメンバーに乗せたバスは街中を30分ほど走り繁華街の中にある古びれた小さなビルに着き

ました。ビルの前には可愛らしい女の子やそうでない女の子が片言の日本語でお出迎えです。「いらっしやいませー」の言葉に誘われ、一行はビルの中に入ると一人づつ女の子に手を引かれ部屋に導かれました。皆さんこれから何が始まるのかちよつと不安でした。

部屋では最初にイスに座らされ靴と靴下を筆り取られます。そして足の指を一本一本丁寧に洗い清められた後、二階へと案内されました。カーテンで仕切られた2畳ほどの小さな部屋が幾つも並び、その中へメンバーは消えて行きました。

良子さんの手を引いていたのは何の間違いか、ダンブ松本みたいな女性なのです。

夫婦連れで参加した人は一緒にマッサージを受けているみたいなので、一人で参加した良子さんはとても不安です。一瞬息が止まりそうになりましたが、隣の声が聞こえてくる事が唯一の救いでした。

部屋に入ると作務衣に似た衣類に着替えうつ伏せになるとマッサージが始まりました。ダンブ松本はそのでかい身体に似合わない仕種で足の指を一本一本引つ張り始めます。

引つ張ったり、回転したり、揉んだりの後、今度は足の裏に全体重を乗せ足踏みのマッサージは続きます。か細い女性相手にその倍は有ろうかと思えるダンブ松本の足から腰、肩と緊張？の中マッサージは進んで行きます。手の指も一本一本引つ張り・揉むの繰り返しが続く約3・40分のマッサージが終わりました。

終えてみるとナントも心地よく、全身をくまなく揉み解す「タイ式マッサージ」が病み付きになりそうな気がします。マッサージを終えた皆さんは血色も良くなり一段と美しくなり、バスの中ではお互いに顔を見合せ「気持ち良かったね！」と上機嫌で帰途につきました。バンコクでの一日も心地よく過ぎて行きました。

#### 4日目 (2000.10.25)

バンコクでの朝がやってきました。昨日の疲れもすっかり消え元気回復です。

慣れてきた朝食のバイキングに向かいます。今朝はどんなメニューかな？と新しい体験の連続に心は朝からウキウキしています。一階フロント前のレストラン入口では朝食を済

ませたのか新聞を見ているメンバーがいます。英字らしい新聞のようだけどホントに読めるの？

おはようございます！と声をかけ、私達はレストランに入り窓側の席に着きました。回りを見渡すと空席が目立ちます。皆早々と済ませた様子です。旅慣れた私達は慌てる事無くバイキング・パーティーの始まりです。

いつものように旅慣れた私はトレーを片手にバイキングメニューを見渡します。いかにも辛そうで美味しそうなさっぱりした朝食のメニューです。クロワッサンとバターロールを



朝食のバイキング



山田長政が栄華を誇った日本人町跡

トレーに乗せ、あとはスクランブルエッグにサラダとコーヒート結局はいつもと変わり映えのしないメニューを席に運ぶ。

ゆったりとした朝の時間が流れる。朝食が終わり席を立つと手招きをしている人がいる。どうやら急げ！との合図らしい。急いでバスに向かうと殆どの人が乗っている。時間を見るとまだ朝の7時を少し回った時刻です。

今日は一日バンコクの観光。ハードスケジュールが組まれて朝の時間から気温はどんどん上がっています。ガイドの案内で出発です。バスはホテルを出ると高速道路に入りました。

バスは北に向けて走った。田園風景が続く中、時折煌びやかな寺院に出会います。いかにもバンコクらしい風景です。バンコク市内から約一時間近く走るとひなびた感じのする日本人町跡に到着しました。バスから下りると外はむっとする熱さです。少し歩いただけで汗が滴り落ちてきます。

その昔日本から移住したあの山田長政が栄華を誇った日本人町跡には現在その面影は殆ど残っていませんでした。当時を偲ばせるものは何一つ見当たりません。ただ、日本人町跡としての案内と石碑が残っているだけです。

日本人町跡には日系人と思われる人達がボランテイアとして民芸品を販売していて、ここで幾つかの土産を購入しました。

日本人町跡を後にして14世紀頃に建国され、17世紀に全盛を誇ったとされるアユタヤ王朝の遺跡とバンパイン離宮へと向かいました。

バンパイン宮殿は、1637年にアユタヤ王朝24代目のプラサート・トーン王が建てた宮殿で、1767年に、現チャクリ王朝のラーマ9世と



バンパイン宮殿

世によつて再興され、現在の姿になりました。公園として開放され王朝の栄華が広い園内に今も残っています。手入れの行き届いた園内には、園内が一望できる展望塔に上って見ました。

展望塔は当時の王様が良く利用されたとは思えない作りの狭くて急な階段で上るのに一苦労です。当時は展望塔から園内のあちらこちらで象が見られたというだけあり素晴らしい展望です。広い園内の散策が終る頃はうなぎ上りの気温で汗びっしょりです。34・5度はあると思われる。出口に向い冷たいミネラルウォーターを買い喉を潤しました。

どの顔も熱さでバテ気味に見えます。バスの中に入ると外との気温差が大きいので寒いくらいです。

昼食の時間が迫ってバスは移動し、郊外の広々とした感じの良いレストランに着きました。昼食はタイ料理のバイキングです。朝からの強行軍でお腹も空き昼食には良い頃合です。メニューは豊富で目移りします。香りが鼻に付き何と無く引けますが空腹感が勝り手当たり次第にゲット。

周りを見ると皆さんの食欲の凄まじいこと。食べることには目がありません。タイ料理独特の香りがまだ慣れませんがお味は満足です。タイ風ラーメンも食べてみました。これは日本の方が美味しい。現地のビールを飲みながらの昼食に大満足でした。昼食を終えるとレストランの外で同行のガイドさんを交え記念の写真を撮りちよつと休憩。

午後は世界遺産であるアユタヤ遺産観光に出発です。

バスは約10分も走ると青々とした木々の間から古びた仏塔らしきも



ワット・ヤイ・チャイ・モンコン

のが見えてきました。  
 ガイドブックで見た「ワット・ヤイ・チャイ・モンコン」です。バスを降りる前、ガイドから「お坊さんには決して声を掛けられない。修行の妨げになる」との注意がありました。  
 ここでのトイレは有料との事。トイレの入口にはお婆さんがイスに腰掛けて見張っていますから、無料で拝借と言う訳にはいきません。たしか10バーツ(約30円)払って使います。その割には余りきれいなトイレではなかったとか。有料なら少しは掃除しろってんだ！ましてこ



ワット・プラ・スィー・サンペット

こは修行中のお坊さんが居られるのだからね。  
 「ワット・ヤイ・チャイ・モンコン」は、広大な緑に包まれた敷地の中に建ち、仏塔は高さが72mはあり、堂々とした建造物です。熱さで汗だくになりながら、仏塔の上部へ続く階段を上ると息切れがしてくるほどです。  
 散策を終え今度は「ワット・プラ・スィー・サンペット」の遺跡観光です。



こげ茶色に風化の進んだ「ワット・プラ・スィー・サンペット」の仏塔群はその殆どが原型を残さず、300年以上も前の17世紀に建造されたという歴史をしっかりと刻んでいます。アユタヤ王宮内にあった最も重要な寺院で、バンコク王朝におけるエメラルド寺院のような存在。ポロムトライロツカナート王時代の1491年に建立され、以降はここで宮中儀式が執り行われてきました。  
 静寂を包み込んだ「ワット・プラ・スィー・サンペット」の近くでは観光客を乗せた象の姿が見られました。

タイでは神聖なる動物として昔から崇められてきた象。気持ち良さそうに乗っているものだから折角のチャンスと私達も乗ることにしました。見ると乗るとでは大違い！慣れない乗り物には注意しましょう！お陰でお尻が痛くなりました。  
 アユタヤ遺産の観光が終ると空模様が悪くなる中をお目当てのショッピングへ。お目当てのショッピングって誰の為？ほとんど旅行会社と現地のためにセットされた「日本人観光客専用」のお決まりコースのお買い物。余り興味は無いけど、雨の中を

ショッピングにお供します。

ショッピングの会場に着く直前に雨はどしゃぶりになってしまいました。女性達は雨にも負けず張切つていらつしやいます。入場前の諸注意の後、「ヤスイデスヨ!」「トテモ、ニアイマスヨ!」と売り込み攻勢に堪えながら約1時間のショッピングが始まります。

お姉さん達の片言の日本語が飛び交い、買物ツアーの女性達は一瞬にして目の輝きが変貌します。民芸品や宝石に女性達は釘づけに、男達にはながーい一時間が終了。朝からの強行軍による疲れも、ショッピングで消えてしまったのか女性達は満足げな表情です。ショッピングが終了外に出ると先程までの雨は上がっていました。

雨上がりのタイの街並みは夕暮れ時の雑踏に変わり、その中をバスは移動して行きます。今日も一日ハードスケジュールをこなし、お腹はペコペコです。

今夜のディナーはタイ古典舞踊を見ながらタイ料理です。小さな舞台がある会場で食事がお待ちかね……ところが思い出せない今夜のメニュー。小さな舞台や会場までは思い浮かぶ

が、食事の内容が浮かんで来ない。というのも旅行から2年以上も経っているから記憶も殆ど薄れているのです。

とにかく食事が終ると舞台では黄色や緑・赤の原色を使った鮮やかな民族衣装を纏った踊り子が登場、タイ古典舞踊が始まった。手や指先の動きが独特なタイの踊りは不思議な感覚を憶えます。古くから残る仏像にタイ古典舞踊の原点があるように思います。一種独特な踊りは見る者に神聖な気持ちを抱かせます。



タイ古典舞踊

お腹も一杯になり、OPツアーに出発。なんとタイ古典舞踊の後「ニューーフショー」鑑賞?とは……ちよつと企画が合わなくないの?とは誰も口にしません。ガイドの文ちゃんの良き計らいで最高の鑑賞が出来るのようにと最前列は貸切。

バスの中では皆さん興味津々でやや興奮気味です。ネオンがギラギラと輝く会場に着くと早速最前列へご案内です。会場の中は妖しげな熱気で沸きかえています。

ステージでは素敵な衣装に身を包んだお姉さん達?のワンステージ終了の挨拶が始まり、次のステージまでの休憩タイムに入りました。私達はドリンクをオーダーして次のステージのオープンを待ちます。

オープニング・ミュージックが流れ、いよいよ歌と踊りのショーの開始です。

ステージの中央にスポットライトが当てられ幕が上がると激しいサウンドに乗ってダンサーの登場です。最前列からのステージはもう最高っ!と、皆さんの目が点になっています。見るからに女性なんだけどホントに元オトコなの?と疑いたくなる様なほどに見分けがつかません。ロパク

のショーとは思えないステージです。素晴らしいショーの合間にコミック・ショーが始まりました。

いかにも「オカマ」と誰もが分かるお姉さん達?が観客の笑いを誘い、見るものを飽きさせることなくショーは進行していきます。

しばらくすると「オカマ」のお姉さん達が客席に向かってきました。客席にいるツアー客の一人がお姉さんに連れ去られてステージは拍手喝采の大賑わいです。コミック・ショーで大爆笑してツアー客が開放されると、今度はなんと私の前に「オカマ」のお姉さんが来るではありませんか。いきなり私の手を鷲掴みにするとステージの上に強制連行です。スポット・ライトで照らされた私は大スターになりました。

タンバリンを持たされ「オカマ」のお姉さんの後を、腰をフリフリ踊る様は絶好の笑い者!それでも国際親善の為、蛮勇を振るってタンバリンを振り腰を振りの熱演に、会場はわれんばかりの大賑わいです。国際スターの仲間入りを果たしましたが、証拠写真が一枚も無いのは残念でありません。

その後も美しいお姉さん達のショーは続き、とびっきりの美女?が登場